

(1) 中村西中学校

学 校 長 小野川 憲
校内研究代表者 沼瀬 美喜

1. 研究主題 「見方・考え方ははたらかせ思考を深める授業づくり」

2. 主題設定の理由

令和4年度の高知県学力定着状況調査の結果を分析したところ、複数の情報から必要な情報を読み取り取捨選択し活用する力や条件に合わせて的確に解答する等の課題が明らかとなった。この課題はR5年度の高知県学力定着状況調査結果からも同じことが言える。このような課題から、既習事項や経験値とつなげながら思考を深め、情報を取捨選択する力を身に付けるための授業や生徒が自分で疑問を持ち、自ら思考を深めていくための課題設定が不十分であることを全教員で確認した。そこで、研究主題を昨年度から継続し、「見方・考え方ははたらかせ思考を深める授業づくり」とした。「批判的思考」を全ての教科における取り組みのキーワードとして設定し、思考力・判断力・表現力の育成に向けた深い学びが達成されるように授業改善を図ることとした。

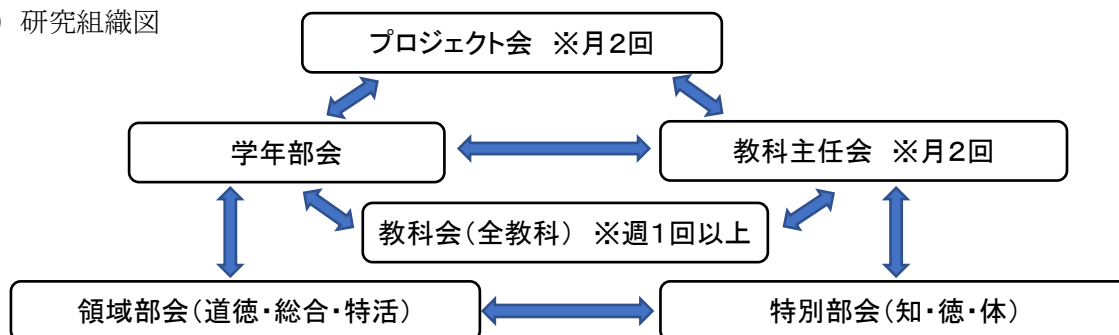
〔研究仮説〕

仮説1：生徒が考えたいと思う課題（必然性のある課題や他者と協働することによって解決できる課題）を工夫して設定すれば、授業に対話や議論が生まれ、生徒の思考力・判断力・表現力が高まるだろう。

仮説2：対話や議論を通して広がったり深まったりした自分の考えを振り返りとして表出させることにより、一人一人の思考の高まりや深まりを自覚させることができ、深い学びにつながるだろう。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織図



(2) 研究内容

I 授業研究を中心とした授業改善

- ・全校公開授業研究（年3回）、グループ別研修
- ・授業づくり講座の開催（理科）、授業づくり講座への参加（5教科）
- ・授業スタンダードに基づいた授業者の心構え自己チェック（学期1回）
- ・授業評価アンケート（学期に1回）
- ・講師招聘（斎藤一弥先生）による授業研通覧（本年度3回通覧実施）

II 効果的なタテ持ちの教科経営

- ・教科主任会（月2回）
- ・教科会（週1回以上）
- ・授業を見合う取り組み（月1回）
- ・チーム会の実施（ミドル会・メンター会）
- ・アドバイザー訪問（年3回）

4. 研究実践

(1) 授業研究を中心とした授業改善

①全校研（年3回）及びグループ研

今年度は全校研公開授業を3回実施した。本校の取り組みとして、全校授業研の前には、「授業の見方」を配っている。また、「研究主題にせまる授業になっているか」を見取るための視点を「ポイント」として明記し、同じ視点で参観・協議が行えるようにしている。1学期の取り組みを踏まえ、思考を深める授業の仕組みに課題が見られたことから「批判的思考を働かせる場面」を全教科で設定し、教科による見方・考え方をはたらかせて考えを深めるための手立てとした。

また、1学期に実施したグループ別研修では、教科を越えてグループを形成し、指導案検討や公開授業を行った。全ての教科担当者が「授業を見る眼」を養い、どの教科においても日常的に話し合える組織づくりを目的とした。

②授業者の心構え自己チェック（学期に1回実施）

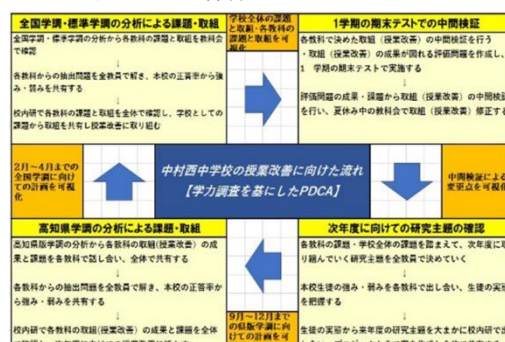
自己チェックシートは「授業スタンダード」や研究主題と対応したものになっている。学期ごとに自己チェックを行うことにより授業改善に向かう意識を常に持ち続け、それを教科会で確認することによりタテ持ちの授業の質をそろえることを狙いとしている。昨年度実施していく中で、授業規律への肯定評価は平均して高かったことから、授業の質に関する項目やICTの活用に関する項目に重点を置いたチェックとなるように見直しを行った。

(2) 効果的なタテ持ちの教科経営

①教科主任会（月2回）

主幹教諭が中心となって計画し、全教科体制で実施している。今年度は、思考を深めるための手立てを中心にまた、昨年度、単元の目標やめあてについて全教科で形式を統一して作成したもの修正しながら取り組んだ。教科主任会で話し合った内容については教科会で周知するようにしている。

また、主幹教諭が中心となり、「学力調査を軸にしたPDCA」を作成している。学力調査ごとに検証し、共有を図ることで、教科間のつながりを意識することができ、具体的にどのように取り組めばよいかも共有できている。それが、タテやヨコの機能のつながり強化となっている。



②授業を見合う取り組み

他教科の授業実践を自分の授業に生かすことや、ベテラン教員と若手教員のOJTをねらいとして、月に1回以上、他の教員の授業を参観している。参観者は授業参観カードに記入し、主幹教諭が統括し授業者に還元し、その後教科会で共有し授業改善につなげている。

③アドバイザー訪問（年3回）

「組織力向上のための実践研究事業」として、西部教育事務所の松田アドバイザーに全授業を通覧していただき、授業改善、及び教科主任会の在り方について指導助言をいただいた。その内容は主幹教諭が次の校内研修で周知し、教科主任会を通じて教科会で周知へ下ろすというPDCAサイクルを回した。

5. 今年度の成果と課題

【成果】

- 授業評価アンケート 研究主題に関わること
肯定的評価 85.8%（1学期）、2学期 86.7%（2学期）
- 教科における「批判的思考」のイメージが明確になった
- 生徒の振り返りから考えの変容が見られた

【課題】

- 授業自己チェック
肯定的評価 58.6% (1 学期)、2 学期 75.0% (2 学期)
- 教科の見方・考え方を踏まえた批判的思考の検討
- 根拠を基にした論理的表現力の弱さ

学期末に各教科について生徒にアンケートを実施している。「授業や単元の最後には、学習内容を振り返ったり整理したりできているか」という項目については、肯定評価が1 学期 80.6%から2 学期 83.6%へと微増した。1 学期に課題となった教科を中心に、授業内で振り返りの型を提示するなど具体的な改善策を取り入れる事で振り返りの質向上へと繋がられている。

また、思考を深めるための取り組みとして、批判的思考をキーワードとして各教科で授業改善を図った。その過程において、批判的思考を具体的な以下の二つに整理し、全教員でイメージを明確にすることとした。

- ①既習事項や経験とのズレを生む問い ②教科特有の見方・考え方

①についてはどの教科でも意識しやすく、教科を問わず取り入れることが出来る。しかし、②については教科や単元によって取り組みやすさに違いが見られることから、今後も研究が必要な部分である。

また、授業自己チェックシート（教師用）は1・2 学期ともに8割を下回っている。特に授業改善の重点取り組み③に関わる項目（付けたい力の見取りと中間指導／板書による学びの視覚化／振り返りにおける成長実感）の肯定的回答平均が72.5%と低かった。学期ごとの取り組みを検証し、研究として手立てを考え、推進していくことが不十分であったと考える。課題も多いが、来年度も本校の強みを生かし、研究を進めていきたい。